

ベトナムの医療事情については一般にわからないところが多い、今回は先に行われた ASEAN 最新事情講座で紹介された医療教育と医療従事者のベトナムの医療事情について、紹介する。

医療従事者の教育水準・社会的地位・国家試験・公立私立の比較

医療従事者に対する国家試験は存在しないので、大学卒業後に OJT という形で各病院にお訓練を受ける。また、一般に公立病院医師というのは一種のステータスのようになっており、医師は私立で勤務することよりも公立で勤務することを好む傾向がある。

ベトナムでは医師国家試験がない：

- ・医療従事者は、医科大学や専門学校を出れば、国家試験を受けず、そのまま医療機関に就職することができる。医師は、医師の学科、看護師には看護師の学科がある。

- ・教育機関が病院と提携していることから、卒業後には受け入れられる病院の名前によって教育機関を選ぶ生徒も多い。しかし、試験なども副収入で合格してしまう国事情などの影響で、実際に豊富な知識を元に医療従事している医療従事者の割合は日本と比較して少ないように見られる。

- ・ある人が言うには、「医師の国家試験がないのがこの国、大学出たら医学部でなくとも医師、看護師になれてしまう。各国の医師がインターネットで採用されてきているのもベトナム。水準向上のために JICA の協力隊が 1、2 年程度派遣されて、スタッフ教育を行っているようである。

公立の医師・私立の医師：

- ・医師の地位は、医師の腕に加え、公立か私立かによって左右される。公立の医師の地位は、私立の医師の地位より高い。公立病院の医師

は高い地位を手にすると同時に、自身でクリニックなどを開いた場合にも公立の病院の名誉によって患者を確保することが可能となっており、このため公立病院に従事したい医師の数は私立病院で働きたい医師より多い

- ・タイだと公立、私立の掛け持ちは多く見られるが、ベトナムでは有名な医師は自分でクリニックを開いていることが多いようである。

- ・調査中聞いた話として実際に公立病院であるダナンC病院のリハビリに所属する医師は、17時までダナンC病院で働き、18時から3から4時間、自宅で経営するプライベートクリニックで診療をするとのことである。公立でもなかなか予約が取れない患者が医師のプライベートクリニックを訪れる。価格は多少高いが、公立で長時間待たされず同じ治療を受けることができることから、連日患者で込んでいるとのことである。

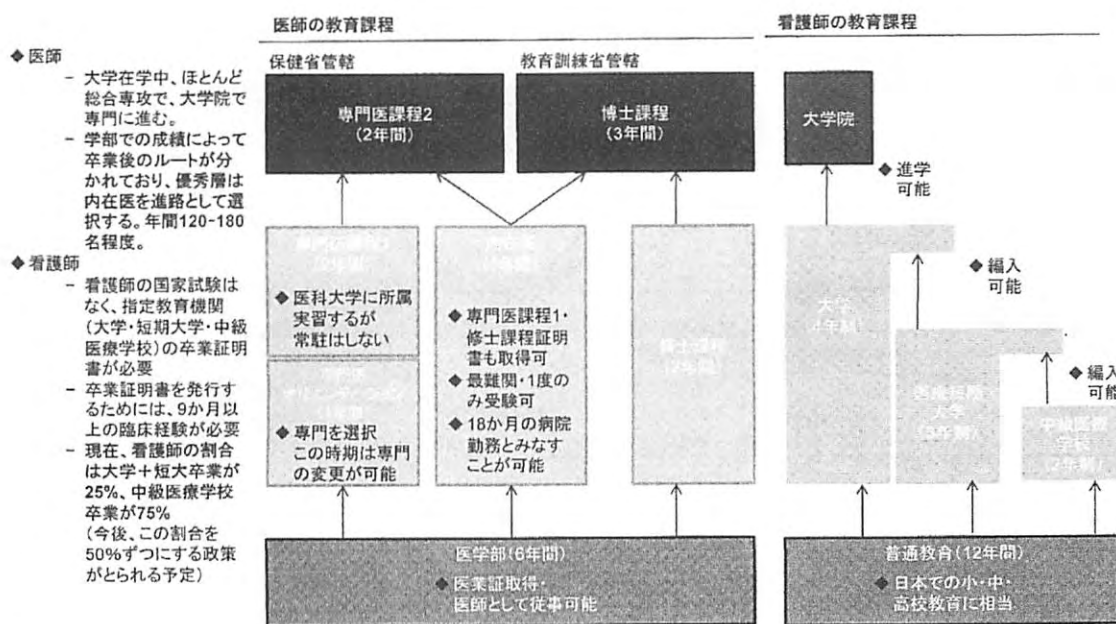
医療の専門性：

ホーチミンに整形外科医の分野でベトナムの医療レベルでは行えない治療を提供するアルゼンチン人の医師がおり、その高い専門性ゆえ、ベトナム各地から治療を求めて来院する

患者が多いとのことである。このことから、何らかの高い専門性を有する医師の存在は、病院の差別化の観点から極めて有効であると思われる。

・医師の専門性向上のための教育については、医師の専門医コースは2年間、一つの病院の

みで研修を行うのではなく、ハノイであればハノイ医科大学で理論を学び、バックマイ病院やベトドク病院などで2か月から3か月のローテーションで、それぞれの病院が持つ得意分野を学ぶことによりキャリアを上げて行かれるようになっている。



アジア戦略アドバイザー資料から

図1 ベトナムにおける医師の教育課程

医療従事者の教育水準・社会的地位
 当NPOが関係しているハノイ医科大学及びバックマイ病院で得られた調査報告によると、
 大学院4つのカテゴリー：
 ベトナム全土の大学院には1) 修士課程、2) 博士課程、3) 専門医課程1(専門1)、4) 専門医課程2(専門2)の4つのカテゴリーがある。大学で勉強している医学生は90%が総合学科を専攻し、10%が伝統・栄養・歯科などの専門を専攻している。一度選んだ専攻は継続しなくてはならない。医学

大学では独立した看護学科がある。以上ハノイ医科大学の場合。

卒業後はだれでも医師になれるが、修士2-3年、専門1.専門2の勉強が必要。卒業後は医師になる学生が多い傾向にあるが、医師にならず修士や専門を勉強する学生もいる。以上バックマエ病院でのヒアリング。

卒業後の進路：

ハノイ医科大学： 一般的に医科大学を卒業した後は、有名病院、研究所、海外留学を選択することとなる。病院に勤務した場合

は、卒業後 5～6 年程度は病院に就職して勤務する。

卒業後は、ハノイやホーチミンなど大都市で働きたく、地方では働きたくない傾向にあるようだ。

ハノイ医科が医学の卒業生のうち大学院に進む学生もいる、大学院に進んだ学生は臨床科、ラボなどを継続して勉強する。

優秀であるハノイ医科大学の中でもさらに優秀な学生(80 人から 120 人)は内在医(Bac Sy Noi Chu)の試験を受け手専門的な研修を受講する。

教授推薦の有無：

優秀な成績を修めた学生は教授が推薦、紹介。普通の学生は病院に入り、病院指導者の下で 6 か月～9 か月ほど臨床を行うか、研究をする。

病院側からの指名

病院側から学生を指名する場合もある。毎年約 80 名から 120 名いる優秀な学生の内、内在医の試験を合格したものの中から指名される。

バックマイ病院：

卒業後、専門 1、2 の取得のため病院で臨床の研修を行う。専門 1 の取得には 2 年、専

門 2 の取得には 5 年～6 年かかる。地方の区や村レベルは、総合学科卒業後、大学院に進むことがほとんどない。卒業後の選攻について、小児科、眼科、漢方科はスタート時に選択する必要がある。その他の分野に関しては、病院の状況により専攻が決定する。優秀な医師ならば勤務先については、20 から 30 年前は、強制的に勤務先が決定していたが、現在は本人本の自由意思で選択が可能である。

学生の選好：

ハノイ医科大学：

研究員は少なく研究の割合は 20%以下。最近では心臓・動脈の学科が人気であるが、年により変動がある(以前は歯科、10 年前は産婦人科)

任期の選好は臨床、外科、産科、小児科。

バックマエ病院：

リハビリ関連はまだベトナムでは比較的遅れているので、将来はリハビリの人気の高まると考えられる。

[アジア戦略アドバイザーセミナー資料] から

建設中のベトナム-日本国際総合病院



3 月 11 日から会員と共に訪越、JICC のアウトバウンド活動を行った。建設現場を視察、病院は現在 11 階まで進み、本年 8 月に内装を終え、9 月から機器の搬入。その後ボランティア診療が始まり、来年 4 月オープニングセレモニーが行われ、本格的な稼働となる見込み。オープニングには日本からも政府関係者並びに提携病院も参加予定。

編集後記：

年号も改まり令和となった。病院の完成が 1 日も早く待たれる。パートナーの KENKO MEDi、会員の皆さん、連携病院 共々飛躍の年としたい。
NPO 日本国際がん患者支援センター 03 6280 5411 会長 堀田健治